

OCT・OCTAの

知見アップデート

Web開催(6月中旬公開予定)

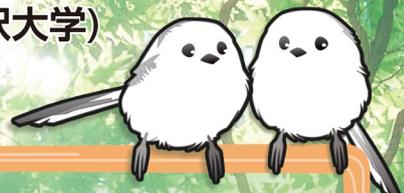
座長



岩瀬 愛子 先生
(たじみ岩瀬眼科)



杉山 和久 先生
(金沢大学)



超高齢化社会における緑内障診療では、患者さんの生涯の視野を守るために、より早期での発見と治療開始時期の適切な判断が求められています。

近年急速に広まったOCTは早期の緑内障診断に役立つほか、早期診断や進行解析にも用いることができるので、臨床での活用頻度は高まる一方です。また、OCT信号を用いて血流を描出するOCTA(OCTアンギオグラフィー)についても、データが日進月歩で集積されつつあるといった現状です。

そこで本セミナーでは、『OCT・OCTAの知見アップデート』と題して、それぞれのエキスパートであるお二人の先生方にご講演いただきます。

東京大学の齋藤瞳先生からは、緑内障診療におけるOCTの活用法としてプロトコール選択のコツや、特に初期の緑内障進行判定におけるピットホールについてお話いただきます。福井県済生会病院の新田耕治先生からは乳頭出血とOCTAとの関係や近視眼緑内障におけるOCTAの活用法についてご解説いただきます。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

講演 1



緑内障の進行 ~ OCTをどこまで活用できるのか? ~
齋藤 瞳 先生 (東京大学)

講演 2



OCTAでみる緑内障性構造変化
新田 耕治 先生 (福井県済生会病院)

第9回日本視野画像学会学術集会へのご参加には参加登録が必要です。2020年5月23日(土)まで、WEBからご登録ください。

早期割引は、2020年4月30日(木)までです。参加登録者には、Web聴講のためのIDとPWをWEB配信開始前までに、随時運営事務局からご案内します。

